

新幹線車両基地の 観光資源化について

北村 貴寿 議員

Q 世界に冠たる日本の鉄道技術。その最高傑作ともいえる新幹線の車両基地が大村に設置される。

熊本のように美しい基地自体を観光資源化すれば、全国の鉄道ファンを集客できるチャンスである。「新大村駅周辺地域まちづくり計画」に車両基地の夜間ライトアップ見学や「鉄の駅」設置など、新手法を取り入れた観光振興策を盛り込むべき。

A 大村市への設置が決定した車両基地を観光につなげることは賛成である。「ご提案の件については、積極的に取り組みたい。

新幹線の車両基地について

朝長 英美 議員

Q 沖田町側から竹松町側の擁壁を2段にして植栽等はできないか。雨水問題について大村湾までの排水対策は可能か。車両基地駅「福重駅」は可能か。車両基地の従業員の予定人員数、従業員の住宅対策は。車両基地を観光地と

して考えるとき、JR大村線を利用しハウステンボスから車両基地までのレトロ機関車の運行などの観光政策は可能か。

擁壁については直壁でも植栽が可能であることから景観対策に配慮するよう鉄道・運輸機構に対し要望したい。雨水対策、福重駅については関係機関と協議し積極的に取り組みたい。基地の従業員数は100名程度配置されると考えており、できれば人口が減少している松原地域を考慮した住宅施策を計画していきたい。観光列車については、大村湾を眺める路線は注目を浴びており実現させたい。

A 擁壁に伴う見直しはいまだ示されておらず、当初の建設事業費2、600億円（武雄温泉・諫早間）に対する大村市の負担総額は8億700万円のみである。本年度の事業費は、鉄道・

九州新幹線西九州ルート 事業について

三浦 正司 議員

Q 諫早・長崎間の延伸に伴う建設費用の総額と大村市の負担総額、本年度の負担額の決定に至った経緯について尋ねる。

A 延伸に伴う見直しはいまだ示されておらず、当初の建設事業費2、600億円（武雄温泉・諫早間）に対する大村市の負担総額は8億700万円のみである。本年度の事業費は、鉄道・

運輸機構が算出している大村市の負担区間の事業費の3分の1が地方負担となり、そのうち10%が大村市の負担額となるので、その額を新年度予算に計上している。

新幹線を活かした まちづくりについて

田中 秀和 議員

Q 施政方針によると、平成34年の新幹線開業に向け「新大村駅周辺地域まちづくり計画」を策定するとあるが、体制及び手法はどうなるのか。まちづくりの専門スタッフの配置が必要ではないか。また、その計画地域はどういった範囲になるのか。

A 外部の学識経験者等を委員とする基本計画策定委員会を設置し、平成25年度末までに計画を完成させたい。また、アドバイザーをいただけるような人物についても招聘を図りたい。計画地域としては、新幹線駅舎用地を含む約5、000坪とろつ学校用地約1万3、000坪を考えているが、どのエリアまで必要かということも含め、委員会で議論していただきたいと考えている。



教育・文化・スポーツ

大村ロードレース大会 について

北村 貴寿 議員

Q ランナー人口は増加の一途。全国各地でマラソン大会が誕生している。ハコモノ無しで集客が見込め大きな経済効果もある。大村にも歴史ある大会があり、これらを活かすべき。私も出場したロードレースの10kmコースの参加者からはコースへの不満や安全性への疑問の声が上がっている。大会全般を見直しつつ、ハーフマラソン開催を検討してはどうか。

A マラソンやロードレースの開催は、地域活性化に非常に大きな効果があると考える。開催には、道路事情や警察との協議など、難しいハードルがあるが、市職員や市民の方からいろいろなアイデアを募り、ハーフマラソン、ロードレース、駅伝等の開催を検討したい。